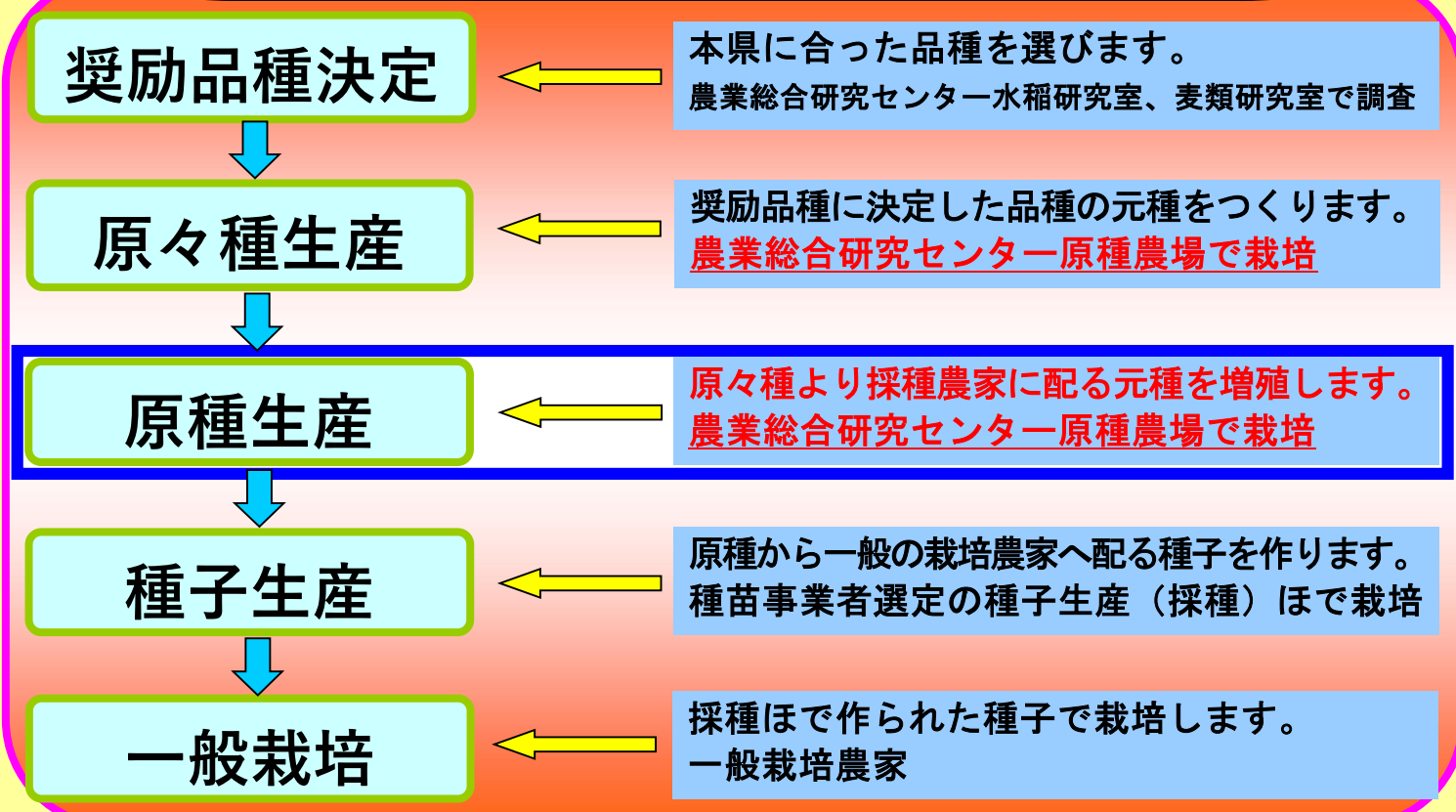


農業を支える原種生産

品質の高い作物を、消費者に安定して供給するため、毎年の種子更新は欠かせません。

農業総合研究センター原種農場では、奨励品種の水稻、二条大麦、小麦、六条大麦、大豆について、品種の特性が維持された優良で良質な種子を、県の計画に基づき生産し、食糧生産を支えています。

種子生産の流れ



(栃木県農業総合研究センター 原種農場)

原種ができるまで

水稻、麦類



田植え作業

大豆



播種作業



薬剤散布



中耕培土作業

異株の抜き取り作業



異株（異品種や、形態の異なった物）の抜き取り作業は、原種生産で最も重要な作業です。異品種が混入すると原種になりません。細心の注意をはらいながら、年に数回実施します。

水 稲



立毛調査

異株の混入が無い、最終チェックを行います。

麦 類



収穫作業

異品種、異種の混入を防ぐため、コンバインの清掃はその都度念入りに行います。



乾燥作業



調整作業

水稻や麦は、風を送り軽い物を取り除きます。



大豆は、色により病気の粒を取り除きます。

袋詰め作業



次の種まきまで、低温で貯蔵します。



低温貯蔵・出庫



種子生産（採種）ほへ向けて出荷します。